

# 氷見市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 令和6年2月21日(水) 午前9時から10時10分
- 2 場 所 氷見市役所 全員協議会室
- 3 出席者 林市長、鎌仲教育長、湖東職務代理者、關野委員、圓山委員、佐原委員、泉澤教育次長、瀨井参事、萩原学校教育課長、布尾文化振興課長、西島スポーツ振興課長、山口教育総合センター所長、坂下学校給食センター所長、清水図書館長、小谷博物館長、砂山学校教育課長補佐、田邊スポーツ振興課長補佐

## 4 会議内容

### (1) 開会

(2) 開会のあいさつ 林 市長

### (3) 協議事項の説明

#### ①令和5年度の取組と成果について

資料「令和5年度の取り組みと成果について」に基づき、各所属長が説明した。

①「就学援助について」、②「学校における働き方改革」、③「氷見市プログラミング教室」、⑩「ICT教育の環境整備について」、⑪「コミュニティ・スクールについて」、⑫「学校の長寿命化について」を学校教育課長、④「学校におけるプログラミング教育」、⑤「学力向上の取組について」、⑥「外国語教育の取組について」、⑦「ふるさと教育の取組について」、⑧「いじめ防止対策について」、⑨「ICT教育の取組について」を教育総合センター所長、⑬「少年補導の状況」、⑭「芸術文化館の利用状況」を布尾文化振興課長、⑮「中学校運動部活動の地域移行」をスポーツ振興課長が説明した。

### (4) 質疑応答

#### ・④「学校におけるプログラミング教育」について

湖東代理者 西の杜学園、湖南小学校ではプログラミング教育が着実に進められていることが分かった。そこで、他の学校においてもプログラミングを取り入れた学習が実践されているかお答えいただきたい。

教育総合センター所長 算数科や理科の教科指導には、プログラミング的思考を取り入れた単元が位置付いており、その他の教科でもプログラミング教材を活用することで、少しずつ実践事例が増えてきている現状です。

### ・⑤「学力向上の取組について」について

湖東代理者 「小中学校共に全教科において記述式の問題に課題がみられた。」とあるが、記述式問題の克服に向けて、どのような取組を行っているか、事例を回答いただきたい。

教育総合センター所長 小学校の国語科では、字数、段落等に合わせる、複数の資料から読み取ったことを入れる、思考ツールを使い整理するなど、条件に合わせて書く場を設定しております  
算数科では、数学用語を使って分かったことをまとめる、計算の仕方を自分の言葉でまとめるなど、言葉や数、図を使いながら考えを書く場を設定しております。  
中学校においては、全ての教科において、学習用語を用いて、学んだことや考えたことを文章化し、文章や資料を読み取る活動を意識的に取り入れ、教科横断的な学びとして読解力を育てております。  
また、英語科の書く力を高めるために、既習表現を用いた短文を書いたり、並べ替え問題を解いたりする活動も授業に取り入れております。

### ・その他

湖東代理者 中学校学習指導要領の技術・家庭で必修となっている「プログラミング」の指導を担う技術担当教員のうち、2022年5月時点で全国の23.1%が技術の正規免許を持っていないとの報道があった。今後の指導要領の改訂で、より高度なプログラミング教育を導入する見通しがあるため、文科省では令和28年度までに全員が正規免許を持つよう促している。そこで、氷見市の現状を教えてください。

参 事 令和5年度は、技術科の新規採用教員を北部中学校に配置しました。現在、氷見市の中・義務教育学校合わせて5校のうち、技術の免許保有者は3名おります。  
現在、免外解消非常勤講師も配置し、すべての学校で技術の免許保有者による授業が実施されており、次年度においても、すべての学校において、技術科の免許保有者による授業となるように人員の配置について要求してまいります。

### ・③「氷見市プログラミング教室」について

關野委員 令和元年度から参加人数が毎年ほぼ一定となっているが、参加者は同じ児童生徒が参加しているのか、新たに参加する子どもが多いのかお答えいただきたい。

学校教育課長 低学年向けのコンテンツは新規参加者が多く、高学年向けのコンテンツはリピーターが多い傾向にあります。令和6年度は高学年向けコンテンツの内容を見直し、プログラミング教材を活用してオリジナルのゲームなどを1年かけて制作するなど、高度なものとする予定としております。

・④「学校におけるプログラミング教育」について

關野委員 教材の貸し出し数が毎年度増加しているが、各学校で同じプログラミングの授業が実施されているのかお答えいただきたい。

教育総合センター所長 本市では、「氷見市プログラミング教育モデルカリキュラム」を令和2年度に作成し、そのカリキュラムをもとに各学校で情報教育の年間計画に位置付けて取り組んでおります。各学校それぞれ創意工夫しながら実践しております。

・⑬「少年補導の状況」について

關野委員 令和5年度の件数が増加している理由をお答えいただきたい。

文化振興課長 令和2年から続いた新型コロナウイルス感染症対策としての各種制限が令和5年5月に解除され、祭りや各種イベントが再開し、人との交流や外出する機会が増えた影響によるものと考えています。

主な内訳としては、深夜徘徊35%、飲酒15%、喫煙13%となっています。年代では、高校生が57%、中学生が24%となっています。

・その他

圓山委員 学校におけるこの一年の取組を振り返り、課題等をお答えいただきたい。

教育総合センター所長 学校現場において、先生方が求めておられることに、センターとして何ができるのかを考えて取り組んできました。国、県、他の自治体の動向を踏まえ、校長会、関係機関等と連絡・調整しながら事業を進めておりますが、なかなかうまく進まないこともあり苦慮しました。特にICT教育に関して求められることが多く、GIGAスクールサポーターの力をおかりすることが多かったです。どの事業においても、人とのつながり、体制を整えて計画的に進めていかなければならないと思います。

・②「学校における働き方改革」について

佐原委員 校長との相談、市教委担当者との面談等、新たな取組を進めておられるが、勤務状況改善を阻む要因の把握と解消にさらに取り組んでいただきたいと考えるが、勤務時間が長くなる主な要因をお答えいただきたい。

参事 本市の学校においては、超過勤務時間が年々減少傾向にあり、今後も勤務状況の把握や更なる解消に向けて努めてまいりたい。依然として超過勤務時間80時間を超える教員が数名おり、要因の一つとしては、中学校の部活動指導や大会引率の時間が長いことが挙げられます。今後は、休日の部活動地域移行を確実に進め、教員が休日にしっかりと休養できるような仕組みを構築してまいりたい。

・⑮「中学校運動部活動の地域移行」について

佐原委員 多様なスタイルが確立され、本市の実情が反映された内容となっており、少子化、教員の働き方改革に対応しながら、楽しんでスポーツ・文化活動に打ち込む生徒の育成に努めていただきたい。

スポーツ振興  
課長

現在協議中のものはすべて、年度当初から一斉に実証事業をとおして活動するものではないため、できるところからできるタイミングで活動を始めることとしております。

・⑦「ふるさと教育の取組」について

佐原委員

「ふるさと氷見」は7年間の利用を想定している。現在は紙媒体で配布しているが、デジタル化し生徒用タブレットにアイコン等を貼って利用することも考えられないか、お答えいただきたい。

教育総合セン  
ター所長

今回は、QRコードを添付し、ホームページ「みんなでまなぼう ふるさと氷見」の資料や動画が見られるよう工夫しました。

デジタル化については、児童生徒用のタブレットの容量の問題で、アイコン等を貼り付けることは難しいですが、ワンドライブやホームページにのせる等、様々な方法が考えられます。容量や児童生徒の活用のしやすさなどの課題がありますので、今後検討していきたいと思っております。

・⑦「ふるさと教育の取組」について

市長

湖南小学校が「キャリア教育 文部科学大臣表彰」を受賞したとあるが、どのような内容か。また、「氷見郷土かるた」はどのように活用されているのか。

参事

湖南小学校では、子ども達のアイデアを活かした竹製の商品を開発し、おらっちゃんの店などで販売しております。また、学校のそばにある「きずなの森」の整備活動などがキャリア教育として認められました。

教育総合セン  
ター所長

郷土かるたは「ふるさと氷見」に掲載されております。社会科の時間や、郷土の偉人について学ぶ際に活用し、子ども達が楽しく学ぶことができるよう使用しております。

・「令和6年能登半島地震による被害状況等について」学校教育課長が説明した。

(3) 閉会のあいさつ 鎌仲教育長

午前10時10分 会議終了